

お客さま及び関係各位

福島原発事故に伴うお知らせ（第3報）

福島原子力発電所の事故による放射性物質の拡散に伴い、農産物への直接的影響が懸念されております。このような状況に際し、弊社では茨城大学応用粒子線科学専攻 高妻孝光教授にご尽力頂き放射線分析を行いました。

弊社の主用品目の分析結果は右の表をご覧ください。下記に第1、2報でお伝えした2点に加え、3)に今回の結果を要約いたします。

1)福島第一原発から生産拠点までの直線距離は約 **200km** です。

2)出荷品目は**全てハウス栽培**です。

3) **弊社主要出荷品目を分析した結果いずれにおいても暫定基準値の半分以下であることが確認されました。**

弊社ではこれらの情報から今回分析した品目については放射性物質の影響が少なく安全性が確認されたものと判断しております。しかし今後も継続的に放射性物質の影響を監視していく必要があると考え、紙面ではありますが、まとまった分析結果を追加報告としてお知らせしていく予定です。

また、原発事故以来多くの皆様から暖かいお心遣いのご協力を頂きました、改めて心より感謝申し上げます。今後も関係諸機関から出される情報と科学的な分析結果を基に安心・安全な野菜づくりに努めてまいります。これからも皆様方の変わらぬご協力、お付き合いをお願い申し上げます。



平成 23 年 4 月 3 日 株式会社

シモタファーム

〒302-0036 茨城県取手市貝塚

192

TEL : 0297-78-8239 FAX :
0297-78-7661

図. シモタファームと
福島第一原子力発電所

との位置関係

品目	放射性ヨウ素
スペアミント	0
ペパーミント	184
ルッコラ	424
イタリアンパスレー	609
チャービル	500
ラディッシュ(株)	65
水菜	0
ほうれん草(土つき)	1000
ほうれん草(水洗い)	0

暫定基準値2000
(単位:Bq/kg)

表. シモタファーム主用出荷品目の放射性物質濃度

〔備考〕 1) 今回分析された検体は 2011 年 3 月 31 日に採取され、同年 4 月 2 日までに測定が完了しました（ラディッシュに限り 3 月 23 日採取、24 日測定済）。2) 測定方法：文部科学省発行「緊急時における放射性ヨウ素測定法（平 14 年改正）」3) 測定機器：NaI シンチレーション式サーベイメータ（TCS-161 型）3) 測定者：茨城大学 応用粒子線科学専攻高妻孝光教授 4) 表中の値は上記の方法により放射線量（ μ Sv/h）を計測し、放射線がすべてヨウ素であると考えた場合の推定放射線量（Bq/kg）を推計した値です。なお測定値はバックグラウンドの放射線量を測定し補正を行っております。5) 放射性物質濃度のゼロはバックグラウンド値よりも分析値が少ないことを表します。